

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次

虫めがね 1	2
虫めがね 2	3
東都生協交流会報告	4
活動報告・お詫びと訂正	5
外に出よう	6
賛助会のお願い・ スケジュール	7
学習会	8
小野塚連載	9
岡本連載	10
夕会便り	11
編集後記	12



2012年
4月号





桜の花が咲きほころぶ今日この頃、皆さんどうお過ごしでしょうか？

2012年度のスタートです。新入生を迎えられる学生さん、新社会人を迎える皆さん、新たな気持ちで頑張っていきましょう！！

巻頭文

田中 聡



虫めがね

～テーマは恋～

中学の頃、ちょっと気になるクラスメイトがいた。けれども結局最後まで思いを伝えることもなく卒業を迎え、別れの高校へと進むことになった。高校を卒業し浪人期間を経てなんとか大学進学を決めた冬、ふとその人のことを思い出し、今さらながらに会ってみたいと思うようになる。

「実はあの頃好きだった。もしよかったら一度会ってほしい」そんなことを長々と書いた手紙を送り、その日を待つ。当日、吸い始めたばかりのケントを咥えながら駅前で彼女を待つ。約束の時間が30分過ぎ、1時間過ぎ、2時間がたった頃、ようやくあきらめてその場を去る。

「せつない話ね・・・」

「女々しい男の話ともとれるけどね。ただ、この話にはつづきがあるんだ」

それから1週間後、彼女から手紙が届く。文の始めから終わりまで、筆跡がやけに揺れているのが気になりながら読む。手紙をありがとう、という札から始まる彼女の文章を読み進めていくうちに、あの頃の淡い気持ちが胸を打つ。1枚目の手紙の後半に彼女はすでに結婚していると書いてあり、2枚目にはおなかに子供がいることが書かれてあった。僕はまだ二十歳で、これからようやく大学生活を始めようとしているのに、彼女はもう母親になろうとしている。人それぞれ、生きていくスピードが違うのだということを、当時の僕はまだはっきりと把握できるほど成熟していなかった。

「・・・なんだか言葉が出ないわ・・・」

「小心な男の情けない話ってことだよ」



by Melancholic WaTaRu



虫めがね

私は北養護学校（小・中・高）に在籍していた。小学4年になりやっと学校生活に慣れた頃、私達の学年に女子転校生Wさんが入って来た時、私は「素直でとても可愛くて優しい」と思った！！しかし、そう感じたのは私だけではなく学年全員と先輩や後輩・教師やボランティアまで広がり、いつの間にか学校中のアイドルになってしまった。休み時間になると他の学年から多くの生徒がやって来て、Wさんの顔を観たり話しかけたりしてとても賑やかで私達の学年は迷惑していた。Wさんは軽い脳性麻痺で身の回りの事は自分で出来たので、食事介助や授業中に友達の教科書を捲ってあげていた。私も何回か食事介助をして貰った時はとても嬉しかった。高校3年の時、Wさんが妊娠してしまい相手はボラのNさんだったが、そんなつもりでは無かったと何処かへ消え去った。その状況をよく解っていて様子を見ていたボラのMさんがWさんにプロポーズして結婚した。そのMさんは偉くてカッコいいと思った。

幸

僕の初恋は、保育園時代の同い年の女の子です。僕が保育園に通い出したのは五歳の頃で、それまではリハビリ区民センターに通い、その職員の紹介で、センターと混合で週二回保育園に通い、お遊戯などをして一緒に過ごしたのが懐かしい感じです。僕に対しては優しく接してくれ、虐めや僕が危険な思いをしたら、助けて慰めてくれる女の子でした。家にもちょくちょく遊びに来てくれるぐらいの仲で、相思相愛みたいで周りの人は思っていたそうです。現在は、お互いに離れ離れの生活をして、彼女は結婚をして子育てに奮闘中だそうです。僕は風の子会に入会して、充実した毎日を送っています。そのまま僕と交際をしていたらどのような人生を送っていたのかなあ？

田中 聡

東都生協 交流会報告

2月17日にきょうされんと東都生協の交流会で小平の方にメンバーの三木さんに行ってきました。会場には、風の子を入れて6団体が参加し、始めに作業所の発表してから署名の説明、グループ交流、キャッチコピーの発表、作業所商品販売という流れでした。風の子の発表は2番目で、三木さんに発表してもらいました。風の子会の現在に至る経緯の説明や、商品の作り方、風の子の年間行事を発表しました。グループ交流では、まず風の子会の商品を紹介をしてから、東都生協の方々に商品を見てキャッチコピーを考えてもらい、発表しました。キャッチコピーのおかげで商品が思ったより売れ、特にポチ袋と和紙はがきがとても好評でした。

このような機会があったら他のメンバーも積極的に参加して他の施設との交流でいい刺激になるんじゃないかなと思いました。私自身も他の施設の様子が詳しく見れたのでとても良い経験になりました。

平沼 実華

二月十七日（金）に小平で開かれた東都生協の事業の一つ福祉事業、きょうされんの交流会に、会からは通所会員一名と職員一名で参加しました。会場は、駅から近く徒歩一分の場所にあり、招待を受けた七団体・八テーブル（円卓）で計五十六名と両側に各施設の商品が置けるように長テーブルが四つあり、そのうちの一つに風の子の商品を置かせてもらい販売したところ和紙製品や小物類が売れました。発表は、順番にプロジェクトを使い各施設に三分間割り当てられ、《風の子会》を除く六施設は職員が、発表していましたが、唯一《風の子会》だけは利用者が、発表していました。発表の後、各テーブルごとに分かれての交流会があり職員が和紙製品について説明をしていました。

この東都生協の交流会に参加してみて、「なぜ他の施設も利用者に発表させないのか？」疑問に思ったそうです。そして、もっとうちの利用者も積極的に参加して風の子会とは、こういう所なんだ！ということアピールしてきたら良いのではないかと思いました。

三木 直人

お詫び

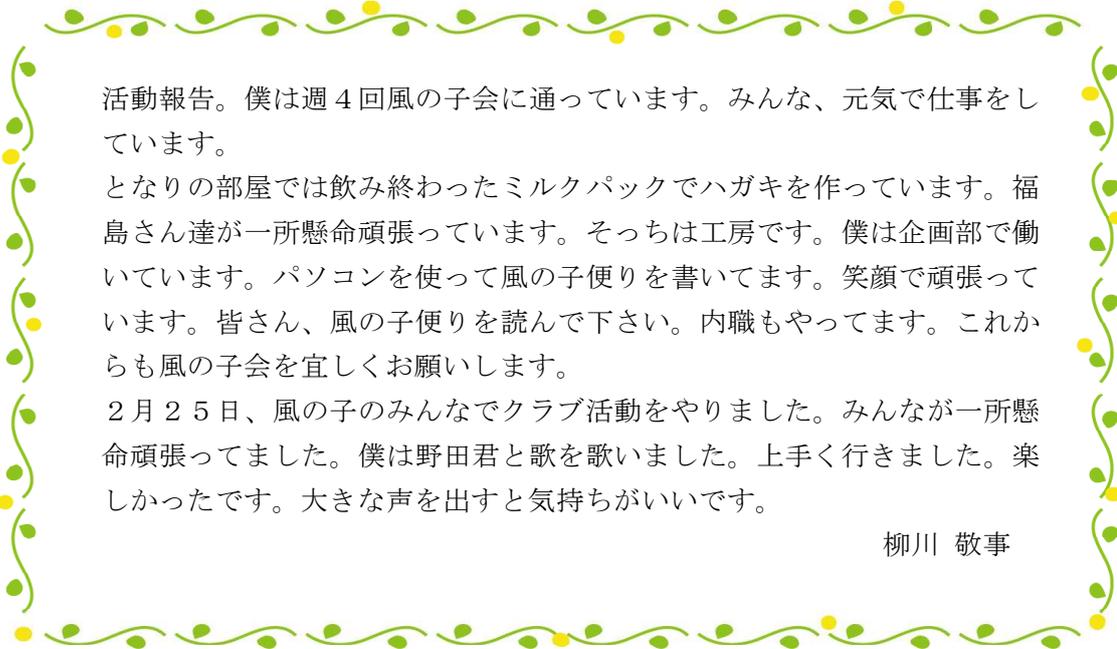
先月号の目次で五ページ学習会・スケジュールは学習会の間違いで、十一ページ太田連載・年間スケジュールは夕会便りの間違いです。すいませんでした。

尚、先月号ではスケジュールの記載が漏れてしまいご迷惑をおかけしました。

また、和栗さんの連載ですが、諸事情により今回は休載とさせていただきます。ご了承下さい。



活動報告



活動報告。僕は週4回風の子会に通っています。みんな、元気で仕事をしています。

となりの部屋では飲み終わったミルクパックでハガキを作っています。福島さん達が一所懸命頑張っています。そっちは工房です。僕は企画部で働いています。パソコンを使って風の子便りを書いてます。笑顔で頑張っています。皆さん、風の子便りを読んで下さい。内職もやっています。これからも風の子会を宜しくお願いします。

2月25日、風の子のみんなでクラブ活動をやりました。みんなが一所懸命頑張っていました。僕は野田君と歌を歌いました。上手く行きました。楽しかったです。大きな声を出すと気持ちがいいです。

柳川 敬事



外に出ようだよ

『障害者は外に出よう』とは？

この行事を行うことには、二つの大きな理由があり第一には、今迄あまり家から外出をした事のない障害者が外出をして色々な風景を観たり、気に入った物を買ったりと人との交流をとってもらい知識をたかめてもらったり、二つ目としての大きな主旨としては、この行事に沢山の障害者が参加することで、まだ家に籠もっている障害者やその家族に『外に出ようよ』と呼びかけ、世間の人々に私達は今を精一杯生きてるんだということをアピールすることで、今のバリアフリーで本当に良いのか？という疑問を世間に投げかけることも狙いです。ボランティアに来てくれた方達にこの行事を通して今後のバリアフリーに対して障害者と一緒に考え、お互いに尊重し合いながら生きようではないかと投げかける意味も持っています。少しでもボランティア活動に対して興味を持ってくればこの行事も大成功です。本番当日は、10名前後の班単位で行動します。（介助の必要な障害者1名に対し、3名のボランティアという組み合わせを考えておりますのでご安心下さい。）

第19回『障害者は外に出よう』では、鎌倉に行くことが決定しました。

日程を記しますと

4月28日 障害者・ボランティア募集の締め切り日及びリーダー会議

5月12日 全体集会 港区役所体育館

5月20日 本番当日

5月27日 予備日

ふるってご応募ください。

（お知り合いの方を誘って頂くと、とてもありがたいです。）

問い合わせ：風の子内事務局 担当：岡本・山名

実行委員長：三木 直人



特定非営利活動法人「風の子会」 賛助会任意加入のお願い

日頃、風の子会の活動にご理解、ご支援を頂きありがとうございます。おかげさまで風の子会は、「一人ぼっちの障害者をなくそう」のスローガンのもと、活発な活動を続けることができいております。皆様には心より感謝申し上げます。

風の子会では現在、自立支援法に基づいて活動しています。今年度は自立支援法の廃案となり障害者の方にとってより良い法律になればと思っております。そこで今年度も賛助会のお知らせを送りたいと思います。

風の子会の賛助会とは、ご加入頂いた方から賛助会費を頂き、主に資金面でのご支援をお願いするもので、昭和61年より設けられているものです。本来は、車椅子用車両購入や整備、新しい事業などのために資金を積み立てることを目的に設けられたものですが、現状では財政が逼迫しておりますので、賛助会費は通常の運営費用に組み込ませて頂いております。

すでに多くのご協力を頂いている皆様には重ねてのお願いで恐縮ですが、是非、賛助会の趣旨をご理解の上、新たにご加入下さいますようお願い申し上げます。また現在風の子会の一般会員になっておられる方も、賛助会にもご加入頂けると幸いです。

賛助会会員の方には、風の子会の機関誌「風の子便り」をお送りし、会の活動をご報告いたします。ご加入頂けます方は、同封の振込用紙をご利用頂くか、下記口座へのお振込をお願い申し上げます。

賛助会費： 年間一口3,000円以上お願いできれば幸いです。

郵便振込先： 「風の子会」 口座番号 00150-2-170884

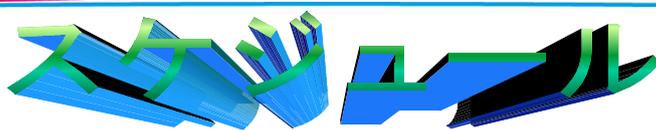
銀行ご利用の方は、下記口座へお願いします。

銀行名： 三井住友銀行 三田通り支店（店番号623）

口座名： 特定非営利活動法人 風の子会賛助会

口座番号： 普通 6864494

お問い合わせ先： 岡本裕介（所長）（03-3474-9674）。



2月24日 クラブ活動

3月10日 料理教室

3月4日 防災訓練

3月24日 外へ出よう代表者会議

3月7日 運営委員会

3月31日 送別会



学習会 報告

2月1日、風の子のみんなで水曜学習会の予定決めを
やりました。みんなが色々な意見を言いました。その日はなか
なか決まりませんでした。

2月8日、風の子のみんなで予定決めの続きをしました。学習会は
ホントに必要なのか、みんなで話し合いをしました。「みんなでやる
事がたいせつです。」松本さんが意見を言いました。そして、みんな
が納得しました。

2月15日、風の子のみんなで合唱とポップコーン作りをやりまし
た。合唱は僕と田中先輩がパソコンを使っている
いろいろ調べました。僕は春の小川をインターネットで調べました。みんな
で大きな古時計と森山さんの桜と春の小川を合唱しました。後半は
ポップコーンを作りました。味は塩とキャラメルでした。美味しかったです。



2月22日、ヒューマンプラザの体育館を借り
て運動をやったそうです。だるまさんが転んだ
とドッジボールをやりました。

2月29日、ヒューマンプラザでカラオケをや
る予定でしたが、その日は雪でヒューマンプラザ
に行けなくなりました。3月14日にカラオケを
やります。

柳川 敬事

わたるのドミトリライフ

【ドミトリとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第43話 5年目に出会った1年生たちについて

僕が5年目に寮で知り合った1年が何人かいる。今回は彼女等について語ってみようと思う。一人目はキョウコ。寮に入って間もない頃にヒロセと付き合い始め、部屋によく来るようになったコだ。小柄でひらべったい顔で、福笑いのお面のような面持ちの彼女は、5年目の僕の部屋の空気に初めから馴染んでいた。ヒロセやタクなどと麻雀をしている時も平然と部屋にいたし、ヒロセが1限の授業に遅れないように朝は必ず起こしに来た。カラオケにもよく行ったし、独特の雰囲気をも漂わせつつも普通に僕と接してくれたコだ。ある日、ヒロセが用事で部屋を2、3日空けることになったがその間もキョウコは部屋に来ていた。「ヒマだねえ」「そうですわねえ」「どっか出かけに行くかあ」「いいですねえ」そんなノリで、二人で恵比寿に行ったことがある。当時ガーデンプレイスができただけの頃で、行ってみようということになったのだ。小田急線とJRを経て恵比寿に辿り着き、ガーデンプレイスを見て回る。八王子と町田しか知らなかった僕には恵比寿という街はとて都心に思えた。そして同時に、こんな都会に女の子と二人で来ている自分自身を、他人事のように不思議に感じたりもしていた。

二人目はアイ。このコを一言で言い表せば、食べてる時と寝ている時以外は始終喋り続けているコ、というよりほかない。とにかく朝から晩まで、相手が聞いていようがいまいが話している、そんな感じのコだ。それはつまりは陽気さともとれるし、無神経でもあるコだと、とらえられてしまうのかもしれない。けれど同時に僕にはその明るさはマリと似ているようにも感じられ、奇妙な親近感を抱いたりもした。アイもキョウコと同じように寮に入ってからすぐに彼氏ができた。ヒロセと同じ学年のタケノウチという3年だ。タケノウチは柔道部の主将であり、体育会系気質と軟弱さを兼ね備えた若者であり、190センチを超えるがっしりとした体格を持つ男だった。僕は3年とは相性がよく、タケノウチともよく遊んでいた。その経緯で、アイと顔を合わせる回数も増えていった。アイは1年目にして運営委員会に入った珍しい1年でもある。そういう訳で、アイとは会話することが多くて気楽に接することのできる1年だともいえた。「あのさ」「うん？」「知り合いが近々誕生日なんだけど、何買っていいのかわかんなくてさ。プレゼント買うの付き合ってくんない？」少し間を置いてからアイは「うん」と答え、二人で町田に買い物に行ったことがある。実はそれはアイへのバースデープレゼントだったのだけれど、こんなクサイ誘い方ができたのも若気の至りだというほかないし、今になってみれば良いデート（もどきではあるが）の思い出として記憶の一つにインプットされている。

三人目はコスモ。小柄で小顔で整った顔立ちで、少しウェーブがかかった茶色の髪をしているコ。屈託のない笑顔と明るい性格で誰とでもすぐに打ち解けられる。コスモは寮よりもサークルや学内の仲間と遊ぶ方が多く、初めの頃は寮の行事にもちゃんと参加していたが、徐々にフェイドアウトしていった。コスモとは特にこれといったエピソードはないが、かわいらしさとその特徴的な名前（本当にコスモという名なのだ）が今でも記憶に残っている。

卒業後、彼女たちがどこで何をしているかは分からない。当時は今ほど携帯も普及していなかったので連絡を取り合う方法も限られていたし、もし携帯があったとしてもアドレス交換をしていたかどうか分からない。そのくらいの付き合いだ。けれどもその頃はみんなとカラオケしたりドライブするのは楽しかったし、今でも寮の素敵な思い出の一つとなっている。

港区に住んでいれば、いつかどこかで偶然ばったりすれ違うことがあるのかもしれない。

～ 第44話へつづく ～

風の子便り連載

バリアフリーよもやま話

第8回 「ボランティア」

風の子会をはじめとして、福祉関係の団体、施設にとって、ボランティアさんは大切な協力者です。このボランティアという言葉は、ほかに、震災復旧支援ボランティア、環境保護ボランティア、さらには選挙ボランティアなどいろいろなところで使われていますが、ボランティアについて皆さんはどういう感じを持っておられるでしょうか。

実はボランティアという言葉は、「～するつもり」という意味のラテン語の **Volo**（ヴォロ）という言葉が元だそうです。つまり、「自分から進んで」何かをやるということです。ボランティアという言葉にはさらに、「他の人のために」、「見返りを期待しない」という意味があるとされています。

しかし、学校で単位が出るからボランティアをやる、会社の命令なのでボランティアをやる、などという人もあり、必ずしも「自分から進んで」ではない場合にもボランティアという言葉が使われています。



さらに、交通費などの実費は支払ったり、ときには低額のお礼を出したりする場合もあり、「見返りを期待しない」というところもあいまいになっています。風の子会でもボランティアさんには、遠くから来ていただいたことへの感謝の気持ちも含めて、交通費をお払いすることがあります。日本ではこうしているところが多いようです。

「他人のため」はどうでしょうか。妻鹿ふみ子京都光華女子大学教授は「ボランティアをやっている人の心の底には、意識はしていないかもしれないが、他の人へ何かをしてあげたいという気持ちがあり、その裏には“お互い様”の精神がある。」と説明しています。また、アメリカの心理学者のデイビッド・マクレランドは「人は基本的に、何かを達成したい、他の人に好かれて受け入れてもらいたいという欲求を持っている。」と言っています。実際には、「他人のため」というより、「お互い様」と「自分のため」がボランティアをやる理由なのかもしれませんね。

ところで、阪神淡路大震災のときのボランティアに対する調査では、「被災地で役に立ちたい」というのが大多数でしたが、「テレビでも脚光を浴びるから」、「進学・就職に有利」、「恋人に振られて気分転換」などもありました。今回の震災でも「感謝されたいためのボランティア」などが問題になっています。まさに「自分のために」で、震災のように命に関わる事態でのボランティアはこれでは困ります。

風の子会に来てくださっているボランティアの方にも伺ってみると、ほとんどの人から「ここに来るといろいろな人と話ができる」、「来ると楽しい」、「面白い人がたくさんいる」という答えが返ってきました。このような自由な気持ちで来ていただけるのはうれしいですね。風の子会にもこれからもっともっと多くのボランティアさんに来ていただきたいと思えます。そして、ボランティアさんにとっても風の子会にとっても有意義な活動ができるようにしていきたいと考えています。

岡本 明



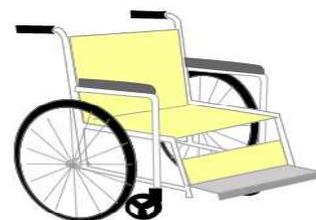
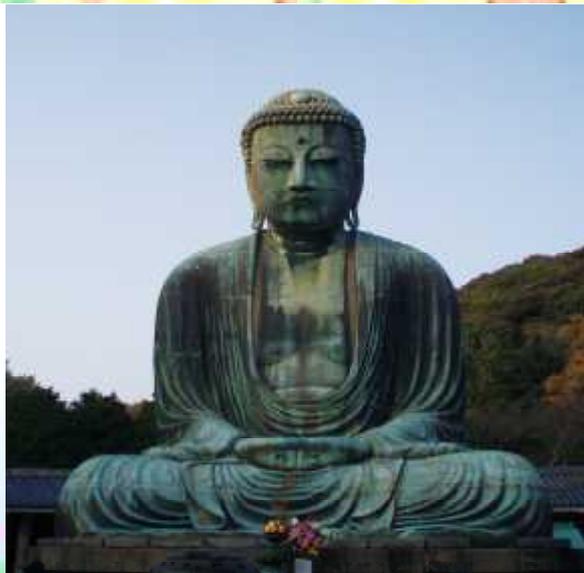
2月4日の夕会で、「外に出よう」の行きたい場所について、メンバーに希望を聞きました。候補地としては最初19箇所あがりましたが、メンバーの挙手によって、浅草、葛西、柴又、ディズニーシー、後樂園、横浜、東京ゲートブリッジ、鎌倉、ゆりかもめ、の9つに絞られました。体の障害が比較的軽く、割と一人で電車、バスを使ってどこへでも移動できる人にとっても、メンバーのみんなでどこかへ出向くというのは、何か違った意味を持ち、とても楽しいことではないでしょうか。

2月18日は、「外に出よう」についての全体会議があり、夕会はお休みでした。

結局、「外に出よう」で行く場所は、鎌倉に決まりました。

2月25日はクラブ活動があり、やはり夕会はお休みでした。

ストーン・ゴッド



編集後記

平日の昼間は、メタボ予防なのか？高浜公園でサラリーマンがウォーキングしているのをよく見かけます。交通が発達した現代は、歩いたとしても7000歩前後ですから・・・

健康によいとされているのは1日（目安として）8000～10000歩、それを補うつもりで歩いているのだと思われます。ウォーキングにはさまざまな効果があるといわれていますからそれも納得です。例えば脳の活性化・心臓や骨の強化等です。ですから意識して歩くようにしたいものです。

三木 直人



埼玉から遊びにくる従兄弟の親子。テレビ電話でよく会話をします。まかなは赤ちゃんだけと、齢はいくつだと思えますか？平成十四年四月で二歳になります。とても頭がいいです。従兄弟（まかなのお母さん）はフラダンスをやっていて、まかなも踊りに興味津々。徳島の阿波踊り、振り付けに編み笠、鉢巻きにうちわ、そして軽快なお囃子。一歳なのにうまくて驚きました。教えて貰ったけどわかりませんでした。まかなはえらい。褒めると嬉しそうにしています。これからもよろしくお願いします。

松本恵司



この頃はまた毎日が暇過ぎて、色々なキャラの模写をしてはブログやサークルの掲示板にアップしている。

田村 亮彦



ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ～定価40円～

編集者
石田神一
太田裕一
佐久間
田村久
三木直亮
柳川敬彦
吉柳三郎
栗田和幸
高橋太
郎史子

編集人：【高浜生活実習所】
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21

